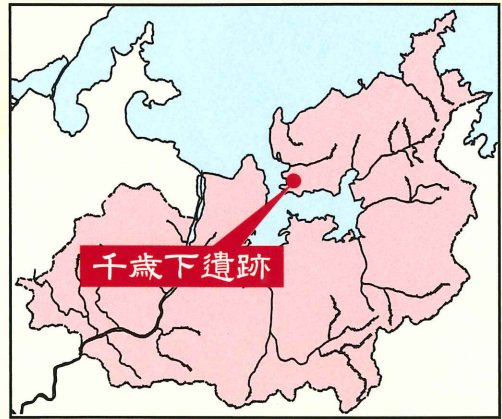


ち と せ し も い せ き
千歳下遺跡

古墳時代の海への祈り

場所：舞鶴市字千歳



千歳下遺跡は大浦半島西端の千歳地区にあり、縄文時代の丸木舟や奈良・平安時代の製塩遺跡群、古墳時代の鍛冶工房を検出した浦入遺跡は2km北にあります。千歳地区は舞鶴湾口の東岸にあり、この沖は幅約0.7kmと湾口で最も狭い地点で、北には丹後半島、南には舞鶴西地区を一望することが出来る交通の要所です。戦国時代の連歌師である里村紹把も舞鶴から宮津の成合寺へ向かう際に、ここに立ち寄っています。また、千歳地区の南



千歳下遺跡遠景

側では市指定文化財の平安時代の仏像がある如来堂があり、地元の伝承には元橋立や文殊信仰などが残り興味深い土地柄でもあります。遺跡は現在の千歳集落と重複し、古墳時代の祭祀の跡が発見されたのは集落の中央に位置する「いちのみやさん」と地元が呼んでいる祠の裏手に位置します。

発掘調査は平成11年におこなわれ、平安時代末～鎌倉時代初頭の集落の跡や、古墳時代前半の祭祀の跡と考えられる遺構群を発見しました。

古墳時代のこの周辺の地形は調査によって窺い知ることが出来ます。古墳時代の祭祀がお



出土玉類

こなわれた所から南北方向は砂礫が堆積する河川が流れ一段低くなっており、山から延びる微高地が海まで延び、古墳時代の祭祀がおこなわれた場所と考えられます。浜から近くに祈りを捧げる場所があり、海に生きる人々の信仰の対象の場であったことが想像されます。

祭祀の場は一定期間継続してあったと考えられ、同一場所で繰り返される祭祀に使用した場や道具を捨てた跡が複数の層から発見されました。それぞれの祭祀をした場から出土した遺物



破鏡出土状況



破鏡

には特筆するものがあり、大陸からの輸入品である舶載鏡や鑄造鉄斧がある他にも国内で造られた銅製の釧、刀や剣、鉄鏃といった武器や鉄斧、鋤先などの農耕具、鉄の原材料である鉄錠など多くの鉄製品、そして祭祀に使用した勾玉、管玉、算盤玉、ガラス小玉、滑石性の有孔円板や白玉といった玉類、そして飲食や捧げものに使用したと考えられる土器が多量に出土しました。

古墳時代の鉄は非常に貴重なもので、その素材は当時輸入品が多くを占めていました。それゆえに古墳に埋葬された鉄は権威の象徴を示す意味があったと考えられています。その鉄を多量に祭祀に使用したこの遺跡には有力な人が祭祀に関わっていたことを示しています。特に鏡を使用する祭祀は日本海側では福岡県の沖ノ島祭祀遺跡しかないことから、特筆する祭祀内容を持つ遺跡であることが窺い知れます。4世紀末から5世紀初頭の丹後では日本海側で100mを超す与謝野町の蛭子山古墳、京丹後市の網野銚子山古墳、神明山古墳の3大古墳が築かれています。これらの古墳は大和政権の日本海側の玄関口として勢力を持っていたと考えられていますが、これらの古墳と時期を一部重複する千歳下遺跡は日本海へ漕ぎ出す祭祀の場とも考えることもできますが、本当の事は分かっていません。貴重な捧げものをした古代の人々は何をねがったのでしょうか。



遺物出土状況